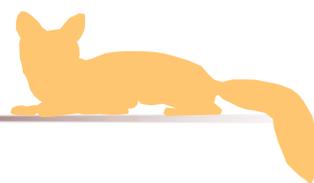


第4章 地区ごとの方針



第4章 地区ごとの方針

下図及び下表の分類にあるように、11のコミュニティ区域（支会）を基本とした地区ごとの位置と概況、**緑のまちづくり方針**を示します（次頁の地区別の見方参照）。

特に緑のまちづくり方針は、豊かな自然、人材をはじめ、歴史・文化資源などの各地区が潜在的に持っている緑の可能性を**軸**として示し、「支える」、「育む」、「親しむ」、「交わる」、「彩る」の5つの基本方針によって、その魅力を向上させ、活用する方針としています。

なお、上位計画である「青梅市都市計画マスタープラン」の地域別構想の地域区分に沿って、38頁から54頁の個別施策ごとに、実施の有無および新規施策の実施時期を示しています。



地区の位置図

地区分類表

地域	地区（支会）	町名
東部	青梅地区	勝沼、西分町、住江町、本町、仲町、上町、森下町、裏宿町、天ヶ瀬町、滝ノ上町、大柳町、日向和田
	長淵地区	駒木町、長淵、友田町、千ヶ瀬町
	大門地区	吹上、野上町、大門、塩船、谷野、木野下、今寺
	東青梅地区	東青梅、根ヶ布、師岡町
	新町地区	新町、末広町
	河辺地区	河辺町
	今井地区	藤橋、今井
西部	梅郷地区	畑中、和田町、梅郷、柚木町
	沢井地区	二俣尾、沢井、御岳本町、御岳、御岳山
北部	小曾木地区	富岡、小曾木、黒沢
	成木地区	成木

【地区ごとの方針の見方】

部 ○○地区

地区の概況を示します。



地区の位置を示します。

地区の位置図

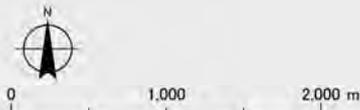
緑のまちづくり方針図

地区の主な
緑の写真

凡例 (緑の将来像図のゾーニング)

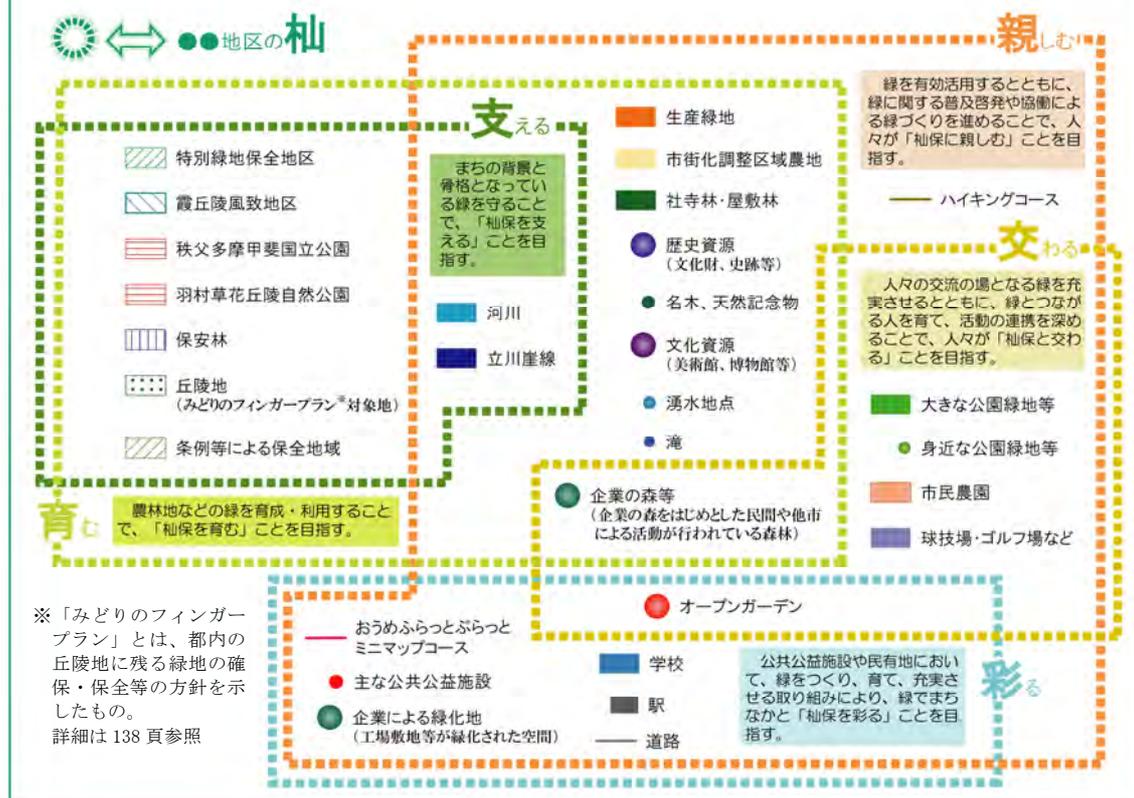
- 自然豊かな緑を保全・育成していく地域
- 自然環境に配慮しつつ、緑を活用していく地域
- 農的環境と住環境を調和していく地域
- 農業的土地利用の維持・保全を図っていく地域
- まちなかの様々な緑で彩られていく地域
- 開発の際に計画的に緑を配置していく地域

地区の緑の分布図を示します。



緑のまちづくり方針

地区の緑のまちづくり方針を示します。



東部 青梅地区

地区の南北に多摩川と加治丘陵が位置し、地区の中央を東西通る旧青梅街道沿いには古いまちなみがあり、寺社境内地や崖線沿いには比較的まとまった樹林地があります。JR青梅駅の北側には永山公園、さらに北には「青梅の森」が、そして多摩川沿いには釜の淵緑地があり、レクリエーションや樹林地の保全活動の場となっています。



地区の位置図

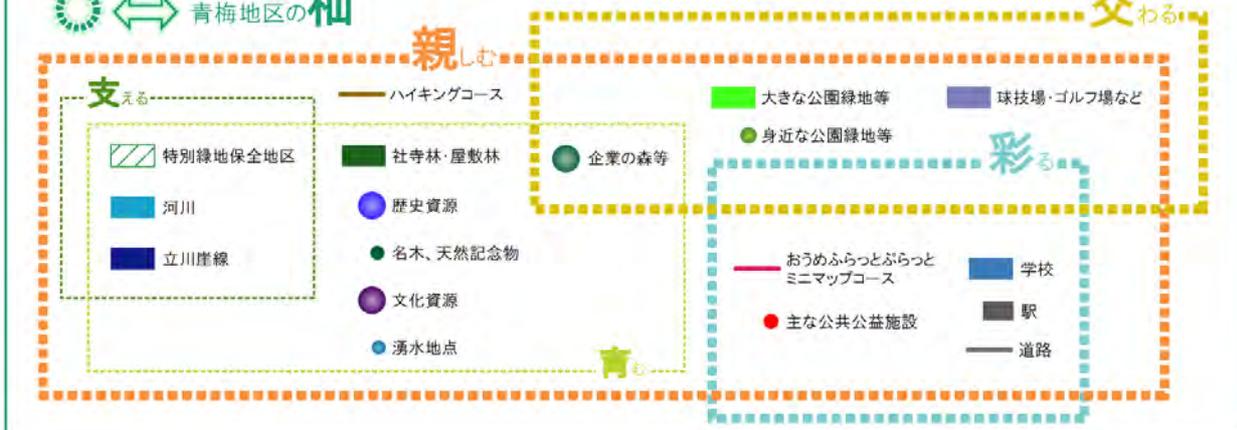
緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

青梅の森や永山公園、釜の淵緑地などの緑の拠点の玄関口となるとともに、社寺林や崖線樹林とまちなかの緑の演出による風格ある青梅の顔を目指します

青梅地区の 軸



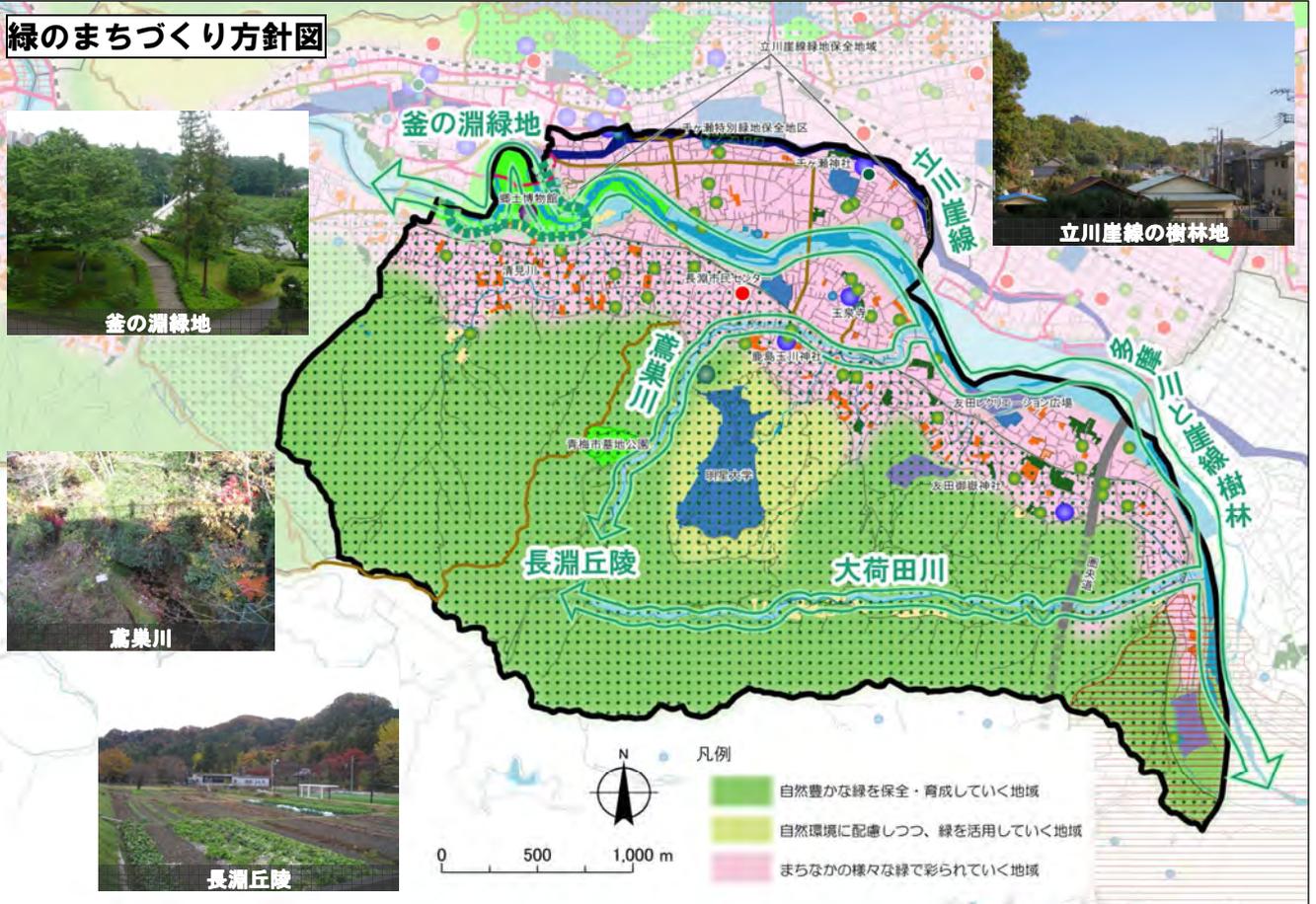
東部 長淵地区

地区の南部に長淵丘陵が位置し、その一部は羽村草花丘陵自然公園に指定されています。また、多摩川をはじめ、鳶巣川や大荷田川など、多数の河川が流れており、多摩川に沿うように崖線樹林が連なっています。市街地には、果樹園を主体とした農地が多くなっており、多摩川沿いには釜の淵緑地や友田レクリエーション広場があります。



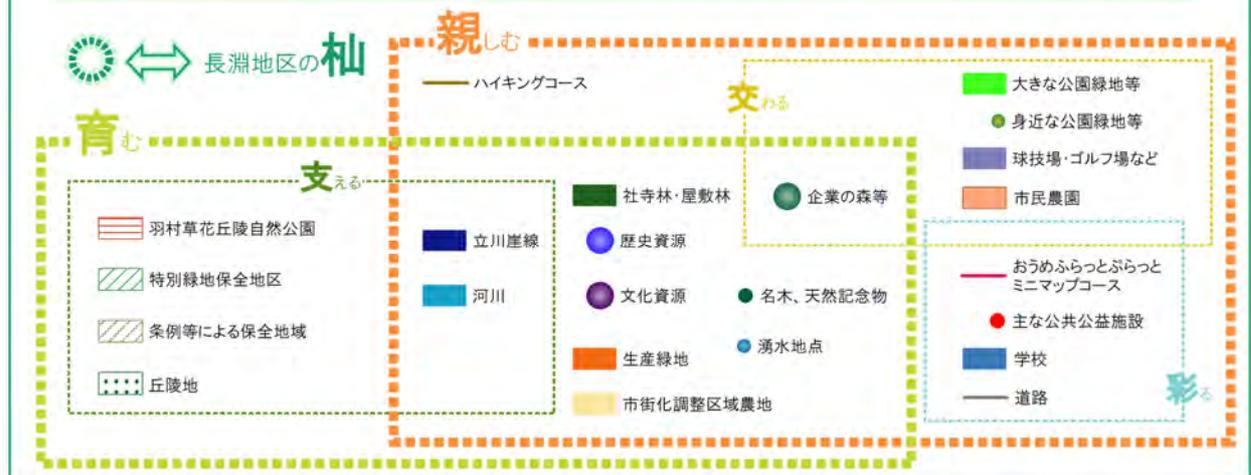
地区の位置図

緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

雑木林の中を大荷田川や鳶巣川が流れる長淵丘陵と、多摩川と崖線樹林に包まれた地域の季節感あふれる生活空間の形成を目指します



東部 大門地区

地区の北部に加治丘陵が位置し、一部は霞丘陵自然公園などを含む「霞丘陵風致地区」として指定されています。吹上しょうぶ公園や塩船観音では、ショウブやツツジの開花に合わせて祭事が開催されています。また、地区の中央を流れる霞川沿いの南東には東原公園があり、平地は霞水田地区・生産緑地などの農地が多くなっています。



地区の位置図

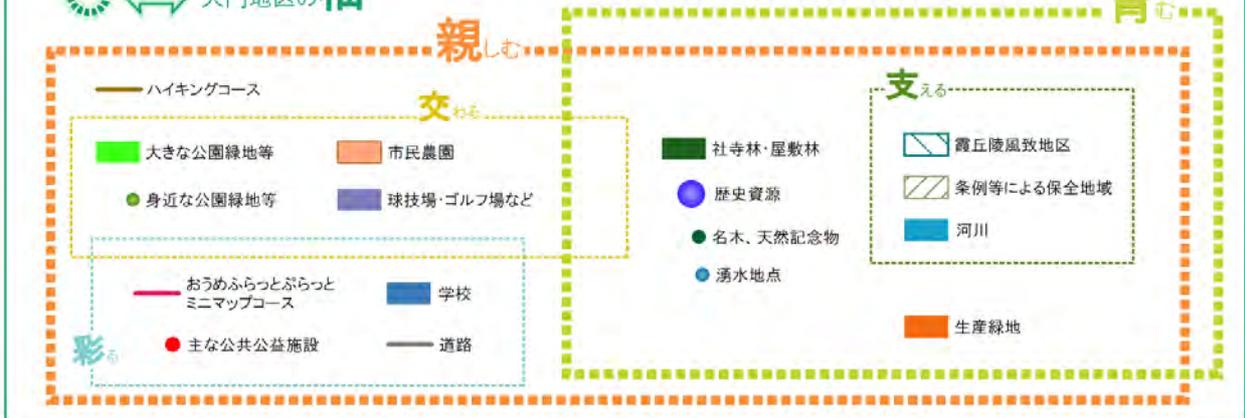
緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

四季の移ろいを感じながらまち歩き・散策したくなるよう、吹上しょうぶ公園や今寺天皇塚水田、霞川をはじめとした緑の魅力の向上を目指します

大門地区の 杉



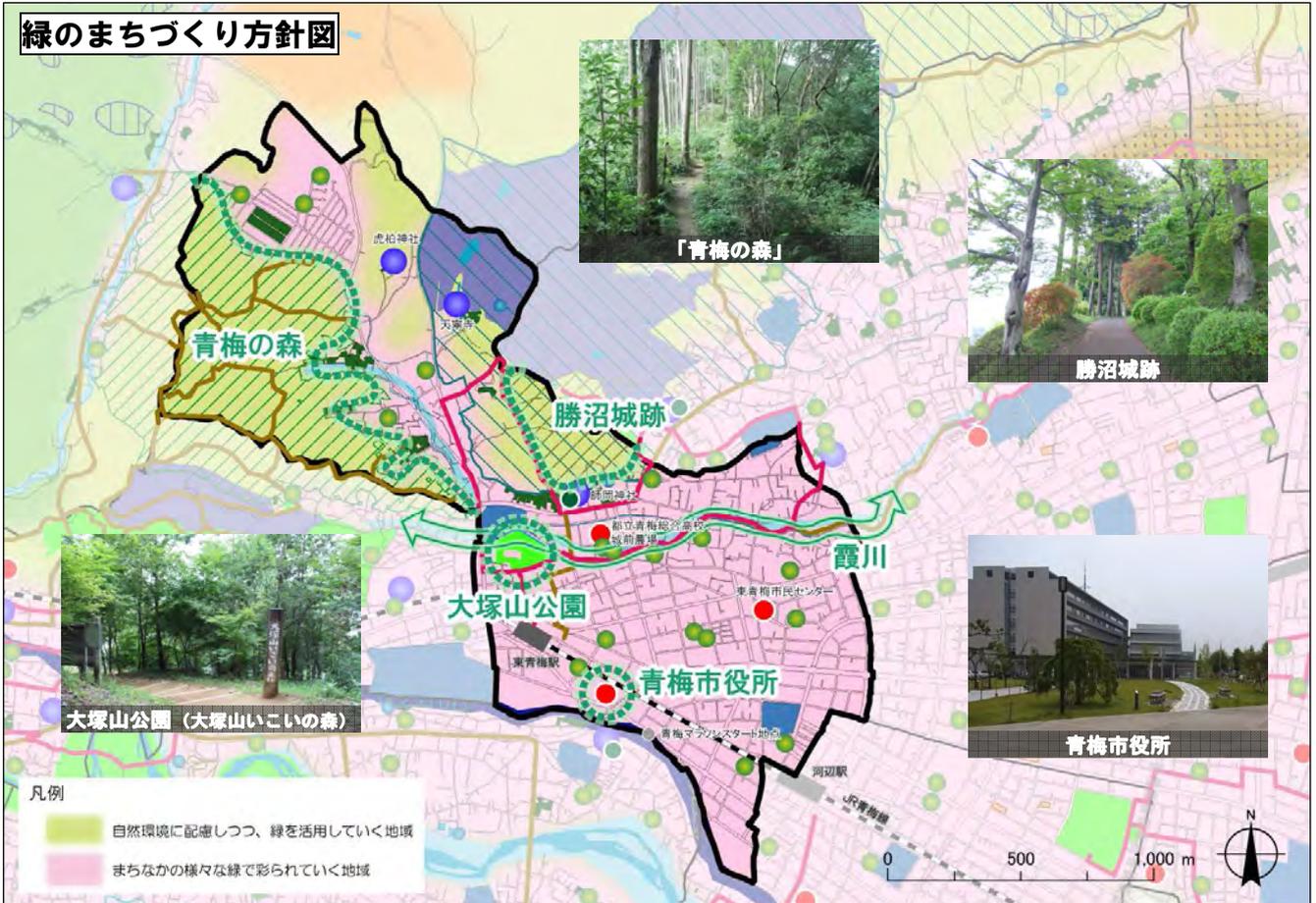
東部 東青梅地区

地区の北部に加治丘陵が位置し、その丘陵地の東側は「第2号青梅の森特別緑地保全地区」、西側は「勝沼城址歴史環境保全地域」を含む「霞丘陵風致地区」に指定されています。南部の市街地には、まとまった緑が少ないものの、霞川が流れ、大塚山公園があります。また、地区の南側のJR線沿いには、本市の顔である青梅市役所があります。



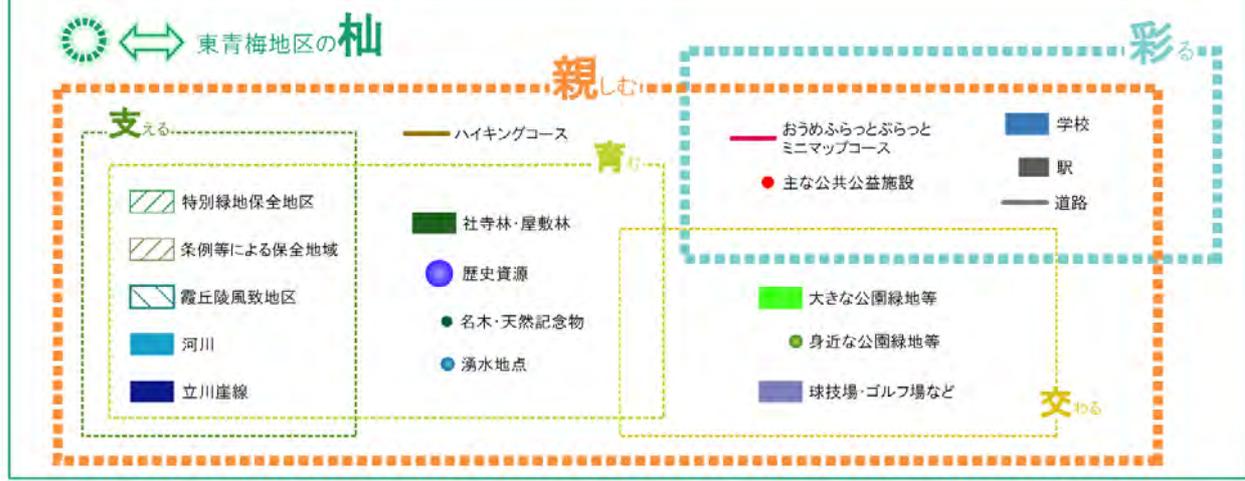
地区の位置図

緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

いろいろな人との協働による保全活動を積極的に行っていく青梅の森を中心に市役所や霞川、大塚山公園などでも緑を介した地域活動を進めます



東部 新町地区

地区全体が市街地であり、北部は生産緑地や市民農園といった農地が多く、南部は工場が多く立地しています。まとまった緑は少ないものの、新田山公園をはじめとした公園緑地等がバランスよく配置されています。また、幅員の広い道路の一部は、平松緑地のように緩衝緑地として樹木がまとまって植栽されています。



地区の位置図

緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

新田山公園や平松緑地、市民農園、歴史資源などを子どもたちと一緒に巡ることができるよう、緑で彩られた子育て環境の向上を目指します

新町地区の 緑



東部 河辺地区

地区の南部に多摩川が流れ、北部は河辺駅を中心とした市街地となっています。地区の中央には立川崖線が走っており、南部を並行して流れる多摩川沿いには市民球技場があります。市街地においては、まとまった緑は少ないものの、大きな公園であるわかぐさ公園や市民農園が点在しています。



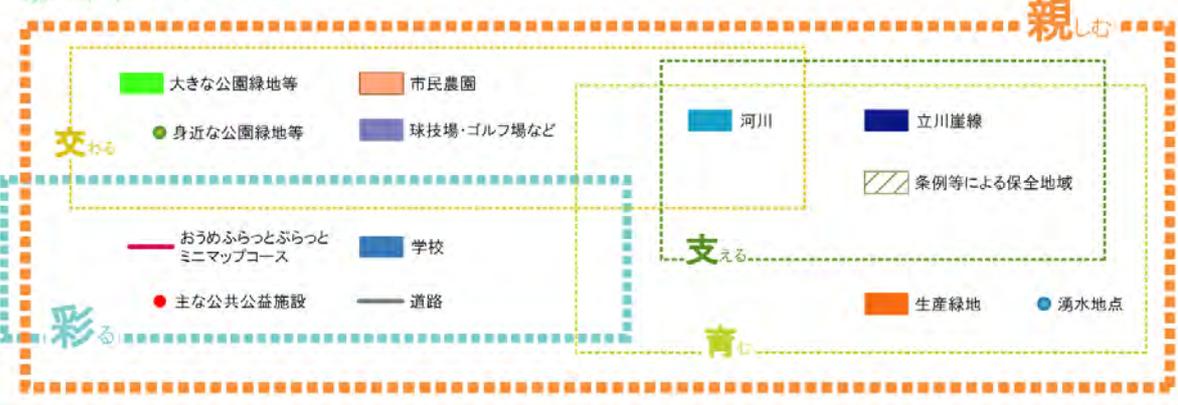
地区の位置図



緑のまちづくり方針

河辺駅を中心とした緑によるにぎわいの演出を進めるとともに、わかぐさ公園や多摩川と崖線樹林、市民農園などの緑と水に親しむ空間の充実を目指します

河辺地区の 軸



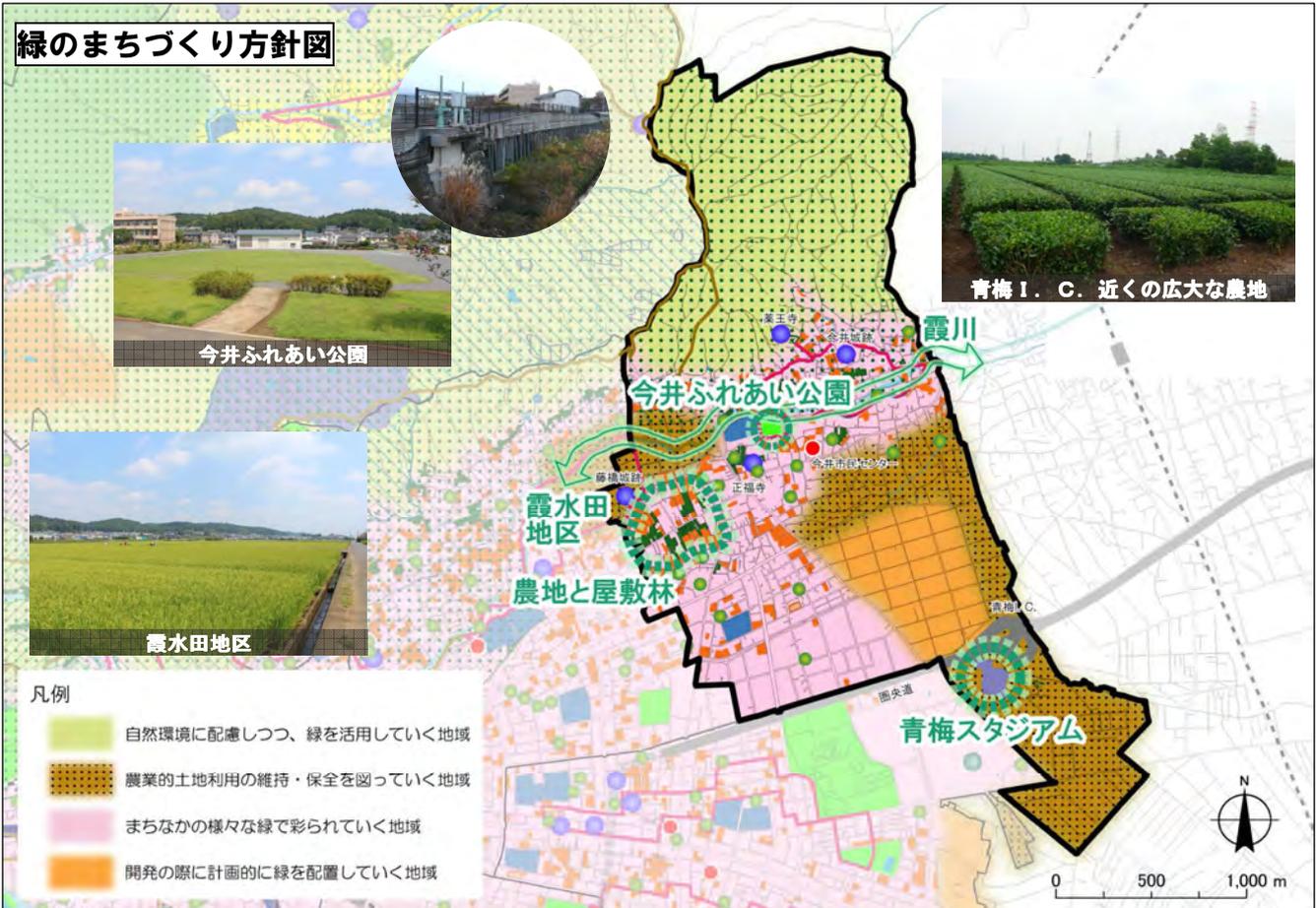
東部 今井地区

地区の北部に加治丘陵が位置し、南部の平地には市街地と農地が広がっています。市街地には工場が多く立地し、霞川周辺や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の青梅インターチェンジ周辺は集团的農地となっています。また、霞川調節池の上部には、今井ふれあい公園が整備され、今井城跡や藤橋城跡などの史跡も多く残っています。



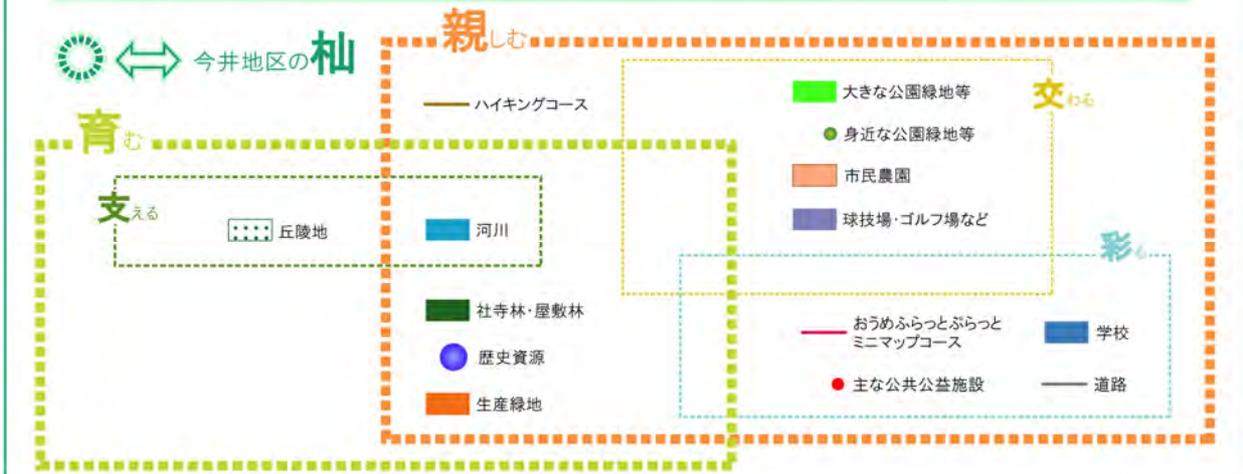
地区の位置図

緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

丘陵地と霞川、農地と屋敷林によって構成される田園風景などの広がりのある緑と水の空間を維持します



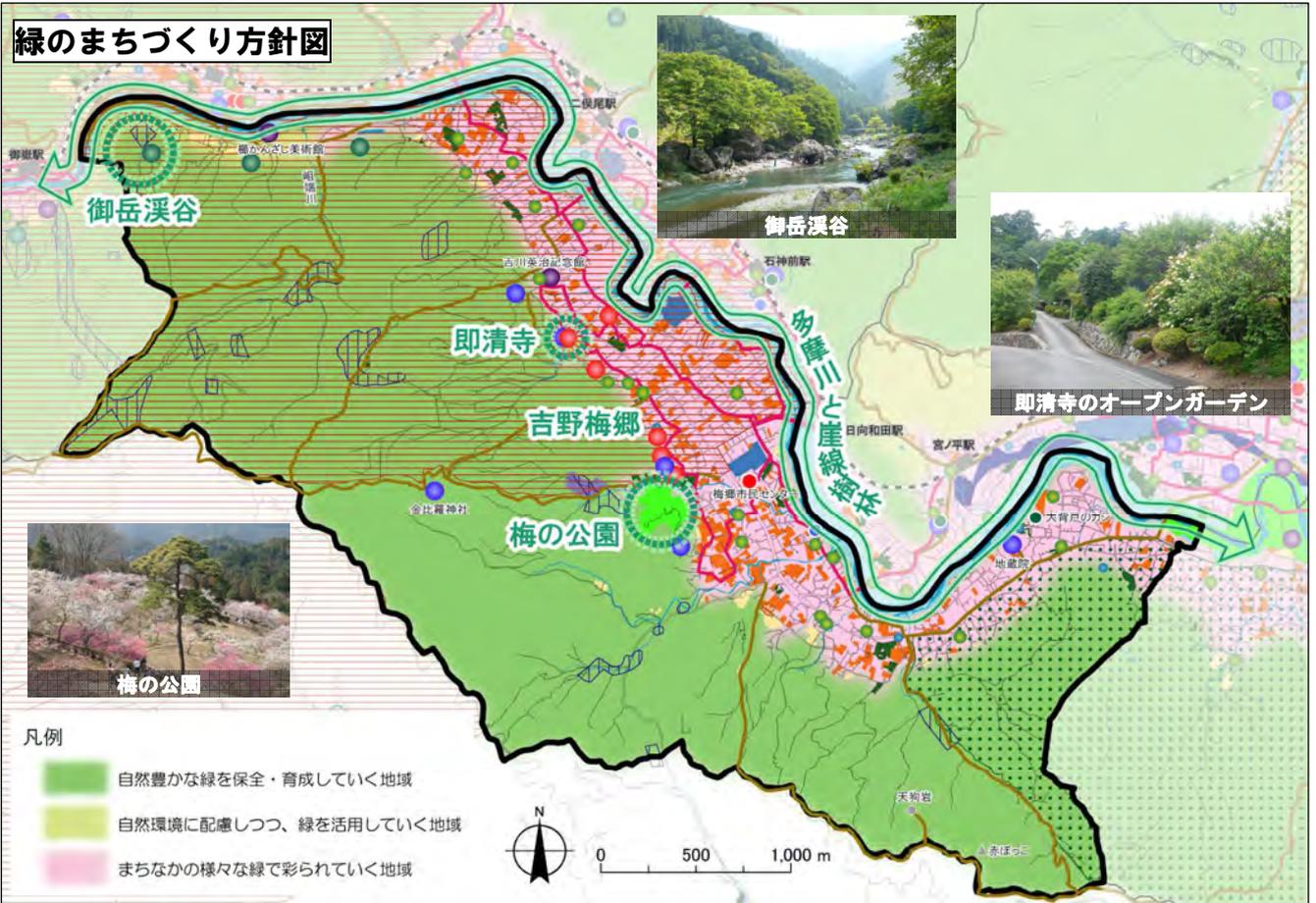
西部 梅郷地区

地区の南北に山地と長淵丘陵が位置し、山地の一部は「秩父多摩甲斐国立公園」に指定されています。地区の北部を流れる多摩川に沿うように市街地が形成されており、農地が多くなっています。吉野梅郷は市を代表する観光地ですが、ウメ輪紋ウイルスによる被害への対応として、梅の里の再生・復興に取り組んでいます。



地区の位置図

緑のまちづくり方針図



凡例

- 自然豊かな緑を保全・育成していく地域
- 自然環境に配慮しつつ、緑を活用していく地域
- まちなかの様々な緑で彩られていく地域



緑のまちづくり方針

山地・丘陵地や多摩川、御岳渓谷と農ある暮らしが織り成す
緑豊かな景観を活かした梅の里の中心地の再生を目指します



西部 沢井地区

地区の中央部には多摩川が流れ、区域のほとんどが「秩父多摩甲斐国立公園」に指定された山地です。御岳山や高水三山（高水山、岩茸石山、惣岳山）にはハイキングコースが整備され、人気の観光地となっています。また、多摩川に沿うように市街地が形成されており、美術館や文化財などの歴史・文化資源が点在しています。



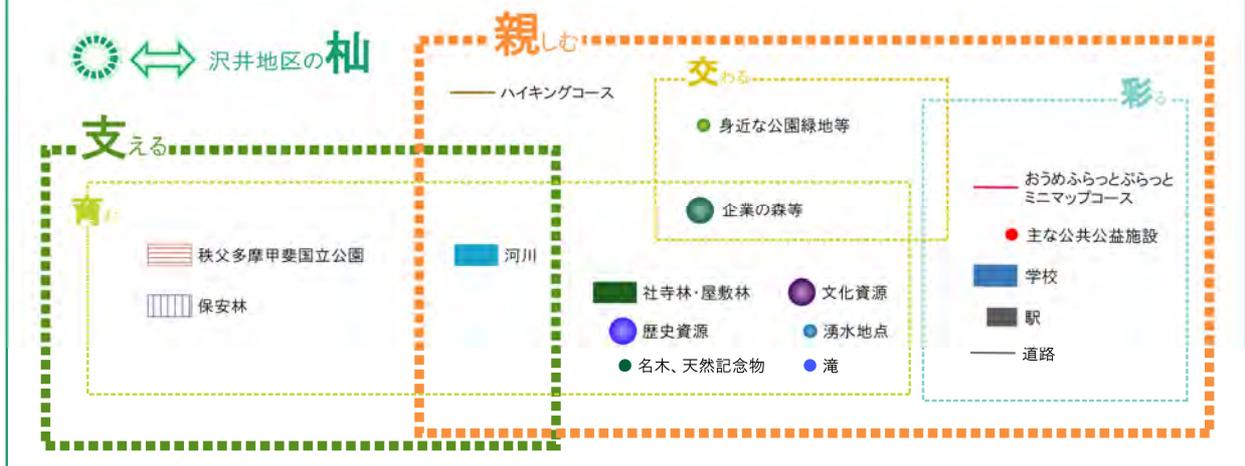
地区の位置図

緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

御岳山や高水三山などの豊かな自然が息づき、寺社や美術館などの歴史・文化資源と地域コミュニティが共存する、緑と人との交流・観光拠点を目指します



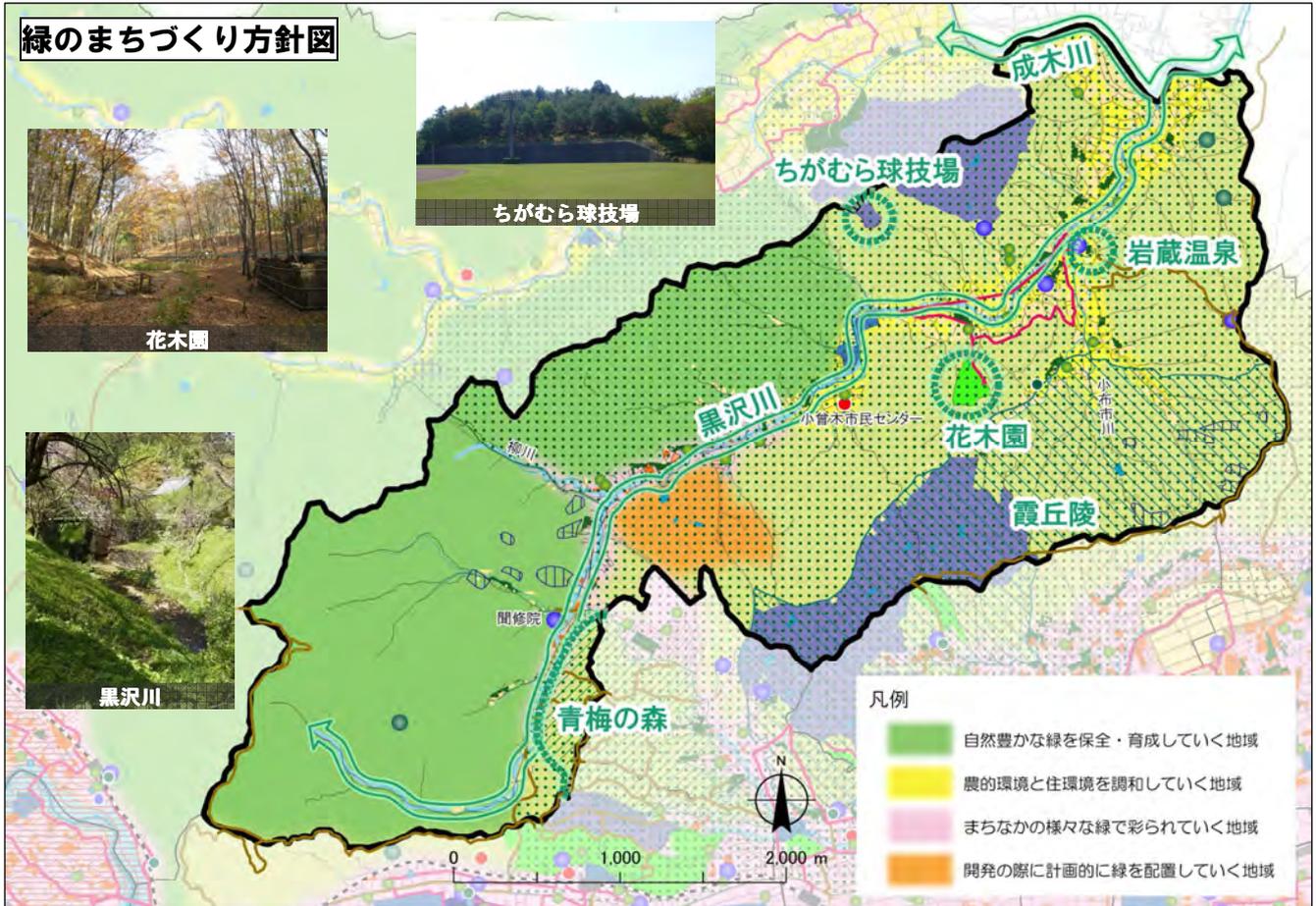
北部 小曾木地区

地区の大半が加治丘陵となっており、一部は「霞丘陵自然公園」や「第2号青梅の森特別緑地保全地区」として指定されています。地区の中央を流れる黒沢川に沿うように、岩蔵温泉郷を中心として市街地が形成されるとともに、農地も多くなっています。地区の東側には花木園があり、農業や炭焼きなどの体験学習が行われています。



地区の位置図

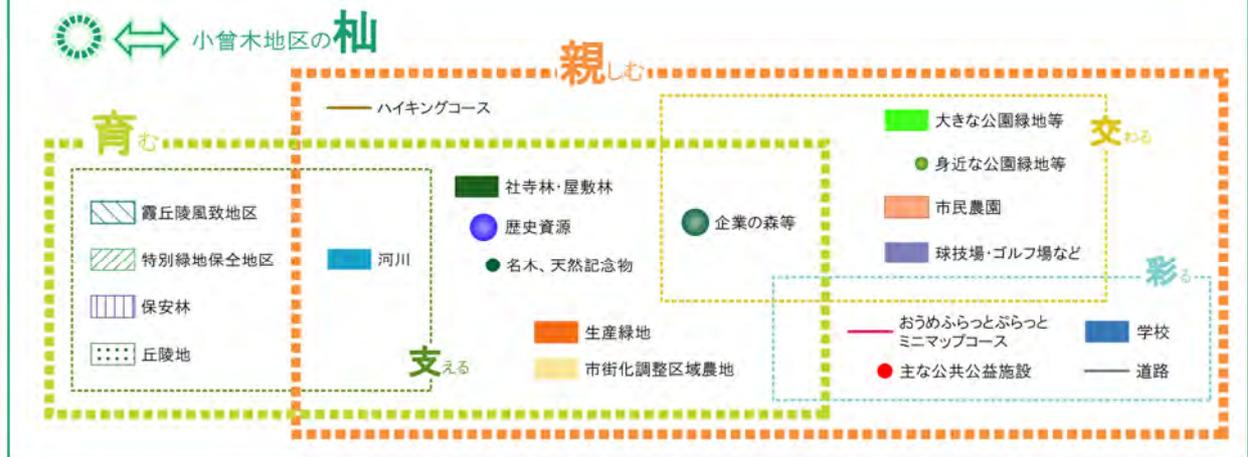
緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

霞丘陵の良好な景観や花木園、黒沢川などの緑資源、さらに農的環境を観光や教育に活かしたまちづくりを進めます

小曾木地区の 軸



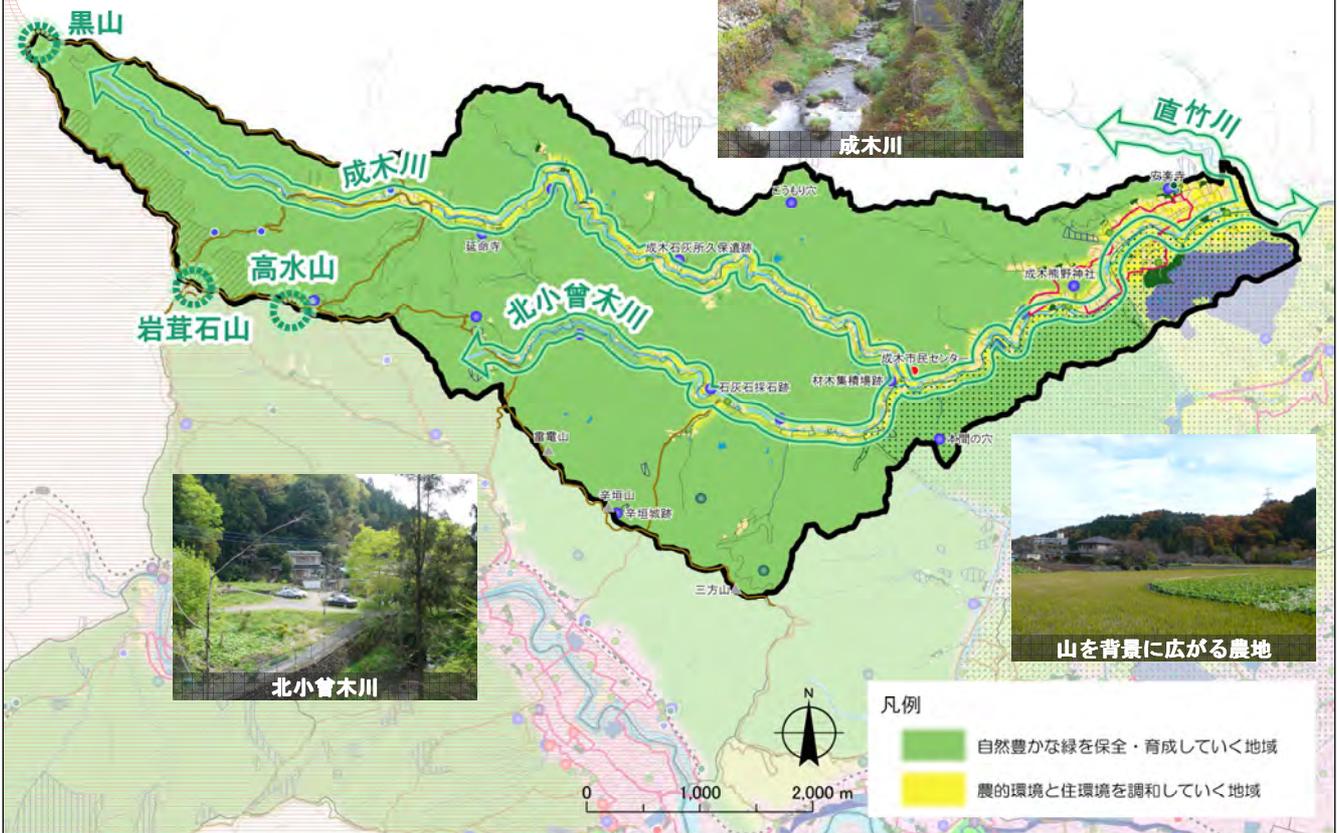
北部 成木地区

地区のほとんどが山地で、多摩川流域や荒川流域の水源の森となっており、西端は「青梅上成木森林環境保全地域」に指定されています。市街地は地区の中央を流れる成木川や北小曾木川沿いに形成されており、農地が多く、地区のほとんどが農林業地となっています。また、採石場やその跡地も分布しています。



地区の位置図

緑のまちづくり方針図



緑のまちづくり方針

成木川や北小曾木川、水源の森に支えられた農林業とともにある暮らしと風景を引き継ぐとともに、教育現場としての活用も進めます

成木地区の 杉

